

令和3年度 奈良県スポーツ推進審議会 第2回定例会 議事録

- 1 開催日時 令和3年8月27日（金）13：30～15：30
- 2 開催場所 奈良県コンベンションセンター 205会議室
- 3 出席委員 佐久間会長、朝原委員、川手委員、千葉委員、中西委員、星野委員、福西委員、松下委員、松永委員、森山委員
- 4 欠席委員 根木副会長、伊藤委員、田中委員、蝶間林委員、並河委員

〔棕本課長補佐〕

それでは開会に際しまして奈良県文化・教育・くらし創造部長の吉田より一言ご挨拶を申し上げます。

〔吉田部長〕

文化教育くらし創造部長の吉田でございます。座って失礼させていただきます。ご出席の委員の皆様、そしてウェブでの参加の委員の皆様どうもこんにちは。いつもどうもありがとうございます。

まずは前回の会議で、最後の締めところで、ウェブ上でいろいろ不手際がございました。改めてお詫びを申し上げたいと思います。本日はそのようなことがないように進めなければなと思っております。どうぞよろしく願います。

また平素より本県のスポーツ振興に大変ご尽力をいただいております。改めまして、お礼申し上げます。

まずこの話題からだと思うんですけども、現在、東京パラリンピックが開催されておりますけれども、東京オリンピックにおきましては本県ゆかりの選手も大変多く出場されました。その中でも皆さんご存知の通り、柔道の大野将平選手が、前回のオリンピックに引き続き、二大会連続で金メダルを獲得されるという偉業を達成されました。ここに奈良県民の一人として、お祝い申し上げたいと思います。

また、東京パラリンピックの関係でございます。県内では、先週に奈良県の聖火フェスティバルで、県立の高等養護学校、特別支援学校の皆さんに、火をおこしていただきまして、その火を東京に届けさせていただきました。本県からは前回大会に引き続き、柔道の男子100キロ超級で、正木健人選手が出場される予定でございます。また、陸上の男子1500メートルに赤井大樹選手が出場されます。また応援していただければなと思いますし、二人の選手の活躍を期待しているところでございます。

と言いながら、昨日もちょっと残念なニュースが入ってきましたけれども、今年開催予定であった三重の国体が、コロナで中止ということでございます。本県もそうですが、感染者が非常に多く増えているところでございます。

こういうふうな中ではございますが、スポーツの持つ力で皆を元気にする、健康にするということが、一方で必要ではないかなと思っております。

本会議におきましても、前回同様、本県のスポーツ振興の目指すべき姿、取り組み方針等々について、ご議論をいただきたいと思ひますし、先ほど申し上げました国体につきましても、今後、約10年後に奈良県での開催が予定されておりますので、そういったものを契機に、ますますスポーツが振興できるように我々も努力をしているところではございますけれども、委員の皆様方から、またお知恵をいただければなと思っております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。簡単に挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

〔棕本課長補佐〕

会議資料、次第、審議会条例について説明
進行を佐久間会長に依頼

〔吉田部長〕

すいません。大変重要なことを忘れていました。本審議会の副会長を務めていただいております根木委員につきましては、東京パラリンピックの選手村の副村長として、連日、テレビにも出られており、大変活躍されております。東京パラリンピックが、根木さんの力でもって盛大に開催されますことをお祈りしたいと思います。根木さん頑張ってくださいねと、この場にはおられませんと言っておきます。

〔棕本課長補佐〕

委員の紹介、議事録の公開等について説明

〔佐久間会長〕

はい。それでは議事の進行に入ります前に、一言ご挨拶申し上げたいと思ひます。あらためまして皆様こんにちは。本日は暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。昨年度からの、特に昨今のコロナの脅威に、日常生活においても不安と恐怖感で非常に鬱々とした中で、オリンピックとパラリンピックの開催に向けては様々な意見がございました。しかし、そこでの選手の活躍というのは、社会に対して明るさをもたらしてくれたと思ひます。そして、感動と、可能性に対する夢と希望を与えてくれたことも事実ではないかと考えております。このことはまさにスポーツの持つ力、困難に直面したときの人の適応力高さと可能性を示してくれたものと理解しております。このスポーツの持つ力というものを使い、また本県のスポーツ振興、推進の中で、最大限に具現化するべく、皆さんの英知をいただきたいと思ひます。何卒よろしくお願いいたします。

それでは議事に入りたいと思ひますが、それに先立ちまして、議事録署名人を指名させて

いただきます。勝手に申し訳ありませんが、星野委員と福西委員にお願いしたいと思いが、よろしいでしょうか。はい。それではよろしくお願ひいたします。

本日の審議会におきましても、各委員の皆様方のできるだけ多くのご意見をお伺ひしたいと思っております。前回は中西委員の最後のご発言のところ少し失礼を申し上げましたが、できるだけいろいろなご意見をいただければと思っております。

それでは、お手元に配布しています、スポーツ振興ビジョンの策定と、令和13年奈良県開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

〔木村課長〕

皆さんこんにちは。県のスポーツ振興課、そして国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室の木村でございます。

私の方から資料4につきまして、少しご説明させていただきます。本日ご意見をいただきたいと思っておりますのは二点ございまして、まず一点目は、奈良県スポーツ振興ビジョンの柱についてでございます。そしてもう一つ、二点目は、令和13年に本県で開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿、この二点について、ご意見をいただきたいと思っております。

資料の1ページをご覧くださいと思います。前回の審議会でも説明させていただきましたが、本県のスポーツ行政につきましては、資料の上段に記載の通り、スポーツ行政組織の知事部局の移管から12年が経過しておりますが、依然として課題はあるということ。そして、令和13年に本県で国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催されます。また、来年度中にはスポーツ推進計画を見直す必要があります。このような状況の中で、令和13年の国民スポーツ大会までの十年間と、その後を見据えた、スポーツを通じて奈良県が目指すべきものは何か、その方針を、スポーツ振興ビジョンや条例にまとめ上げたいと考えております。また、ビジョンに掲げます目標を達成するために、令和13年に開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会で、本県は何を目指していくのか。その目指す姿についても、ビジョン同様にまとめたいと考えております。冒頭でお話しました二点につきまして、ご意見をお願いします。

中段以降は、前回、前々回に、委員の皆様方からいただきました、主な意見を記載しております。身近な運動、地域の特性、デジタル化、人材育成、施設整備など、キーワードとなるようなたくさんのご意見をいただいております。また右側には、県が考える課題についても記載しております。

2ページ目をご覧ください。まず一点目の、奈良県スポーツ振興ビジョンの柱についてですが、先ほどの資料1ページの内容を踏まえまして、課題、取り組みの柱、取り組み例の案を記載しております。この真ん中に書いております赤で囲んでいる部分、取り組みの柱がスポーツ振興ビジョンの柱と考えております。3項目記載しておりますが、「健康増進の

ためのスポーツの推進」、「奈良県のスポーツシーンを充実させる人材の育成」、「スポーツ環境の整備と地域の活性化」。これはこれまでの委員の皆様からの意見を参考に、現時点で我々が考えているもの、案として書いております。本日さらなる意見をいただきまして、この取り組みの柱をまとめたいと考えております。またこの三つでいいのか、違う項目の方がいいのか、あるいは数につきましても三つにこだわっているわけではございませんが、ご意見をいただいて、最終的にこの真ん中に書いている柱をまとめたいと思っております。表の右側の取り組み例は、柱が決まりましたら、その柱に沿った具体的な取り組みを記載し、来年度策定予定のスポーツ推進計画としてまとめ上げます。

資料3ページをご覧ください。ご意見いただくもう一点目、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿についてです。当然ながら一点目のスポーツ振興ビジョンと連動しておりますが、上段に緑色で囲んでいる通り、奈良国体は、より多くの県民が運動・スポーツに親しむ、健康増進する、また、次世代を担う子供たちが夢や希望を掴むなどのきっかけになるとともに、奈良県の魅力を全国発信する大会となること。これが今現在我々が案として考えている姿です。具体的な目標、取り組み例は、中段以降に記載の通りでございます。この目指す姿につきましても、何度も申しますが一点目に言いましたビジョンの柱と同様、委員の皆様のご意見をお伺いして、まとめたいと思っております。

4ページには、県としまして国民スポーツ大会開催を契機として取り組んでいきたい課題などを記載しております。

5ページにつきましては、市町村や競技団体にヒアリングを行っており、現時点ではそこに記載しているような内容のご意見が出ております。参考にご覧いただければと思います。

最後になりますが6ページをご覧ください。スポーツ振興ビジョン、奈良国体の目指す姿、スポーツ新計画の位置付け、進め方について記載しております。今年度中にスポーツ振興ビジョン、奈良国体の目指す姿をまとめまして、来年度中に、具体的な取り組みとなります、スポーツ推進計画を策定する予定でございます。資料の説明は以上でございます。

最後に繰り返しになりますが、本県が目指す、「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿奈良県」の実現に向けまして、今後どのようなテーマでスポーツの振興に取り組むべきか、奈良県スポーツ振興ビジョンの柱となるテーマと、令和13年本県開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す姿、この二点につきまして、今年度中にまとめたいと考えておりますので、皆様のご意見よろしく願います。説明以上でございます。

〔佐久間会長〕

はい、ありがとうございます。ただいまの事務局からのご説明を基にして、いろいろご意見を頂戴したいと思います。まず、資料2ページの奈良県のスポーツ振興ビジョンの取り組みの柱と目指す内容について。資料の3ページの国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の目指す大会の姿、方向性、目標。こういったことについてご意見を頂きたいと思えます。大きな柱としては、奈良県スポーツ振興ビジョンと柱についてです、そしてもう一つは、

全国スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会、この二点です。これはそれぞれ別個に設定されていますが、相互に補い合うものでもありますので、どちらからでもご意見等、頂きたいと思えます。よろしく願いいたします。どなたかまず口火を切っていただく方、いらっしやいませんか。

それでは、いただきました資料の一番最後に、前回の定例会での委員の発言概要がありますが、そこで非常に多くの委員の方々から、特にスポーツにおけるICTの活用ということを取り上げていただいております。それとやはり、人材養成、これは指導者、選手、ボランティアもそうです。こういったことが非常に多くの委員から発言がございました。そういったことを踏まえまして、何かご意見をいただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。ICTについては新たなスポーツということで前回eスポーツのことも取り上げられました。また人材育成、養成としては、選手、指導者、特に指導者の養成の不足について。いずれも一朝一夕にできるものではなく、かなりの時間を要するものです。特に、令和13年の国民スポーツ大会を目指しましては、もう今からすぐに取りかからなければならない問題かと思っています。選手育成は幼児期から始めていかなければ、なかなか大会までに間に合わない。こういった性質のものもあつたかと思えます。

それでは、松下委員お願いいたします。

〔松下委員〕

少しアトランダムというか、バラバラなかたちになるかもしれませんがご意見申し上げます。

まず、資料4の2ページ目から見まして、一番上の課題の、「スポーツに親しみ、心身の健康を維持・向上でき」、というところの、親しむというところは非常に重要であると感じています。親しむというのは楽しむというのをベースにしているということで、やはり無理して、苦勞してスポーツをやらなければならないという考え方になっていると、なかなかスポーツの振興というのは続かない。従ってやはりゲーム性の高い、本当に楽しめるスポーツというものが広く定着しているということがとても大切なかなと感じています。それと並行して、様々なスポーツ施設、良い施設があるに越したことはないんですけど、いろんな予算的な制約があつて、なかなか万遍にというわけにはいかないと理解しております。その上において、簡単な室内施設でやれる、例えばeスポーツですね。eスポーツと言ってもフィジカルにやれるもの、例えば、シミュレーションテニスであるとか、シミュレーションゴルフであるとか。そういう、実態というかフィジカル的な実技を伴うeスポーツを取り入れれば、大きな施設であつたり、複雑な構造を持つ施設であつたりという必要性はないでしょうし、また天候に左右されずに夏でも冬でも、雨でも雪でも、いつでも使えるというところが非常に大きな特徴であると思うので、やはりスポーツの振興基盤にはそのような新たな施設の存在を検討いただきたいなと思えます。また、いろんなゲーム会社さんが、このような分野に非常に精力的で、例えばセガさんがそのようなセンターを作つたりしている。そ

ういう実態などを調べて、そういうところとコラボして、施設を運営すれば、特に子供たちは飽きると使わなくなるので、すぐにバージョンアップできるような仕組みも検討していられると、大人から子どもまで楽しんで簡単にスポーツができるようなものができ上がるのではないかなと考えています。

またマネジメント、人材育成というのは非常に大きな柱になるというふうに理解しております。マネジメントに関しましては、これはプランですけれども、奈良県としても、スポーツ人材マネジメントセンター、スポーツマネジメントセンターみたいなものがあったとしても良いのではないかなと考えています。それは組織マネジメントをサポートするものであって、また収支を含めて経営のサポートをする、マネジメントシステム、それから人材育成のためのマネジメントシステム、そういったものを受け持つ。そしてそのスポーツマネジメントセンターが、それぞれのスポーツであるとか、学校であるとかの、スポーツチームもしくは個人をサポートしていくという考え方、またそこで人材の育成をしていくというような考え方を持つべきなんじゃないかなというのがプランとしてはあつたります。

最後に国体に関しまして、種目が非常に幅広くたくさんあり、県としての負担というものが非常に大きいと理解しています。これはアジア大会と同じような組織規模であるというふうに考えていますし、またその上にさらにニュースポーツというのが乗っかってくる、どんどんどんどんカテゴリーが広がっていくと、人口が減っていくわ、カテゴリーは増えるわで、参加者は少ないという悪循環になっていく。その場合、やはり県として強化すべき種目というものをABCのランク分けにして、少し残酷かもしれませんが勝ち残ればいいというようなシビアな仕組みを作って、予算等の配分をする、もしくはそういう組織のサポートをする、というような考え方にしないと、新しい種目を拡大するために費用を投入するということをやっていくと、どんどん既存の種目がやりにくくなっていくので、その辺は選択と集中というものを考えるべきではないかというふうに考えています。

また、障害者スポーツですが、こちらの重要性は非常に理解するところですし、パラリンピックスポーツにおける今の盛り上がりは、今までにない、過去にない、日本を変える大きなチャンスであると理解しています。例えばパラスポーツではウィールチェア（車椅子）ラグビーやバスケットが非常に人気がありますが、奈良県であれば智辯高校が大活躍した野球や、天理大学のラグビー部、柔道部というような、シンボリックな種目というものがあります。そういったシンボリックな種目をさらに広げて、オリパラ共にスポーツを強化するということをしていくべきじゃないかなと考えております。

以上、とりとめなくお話申し上げましたが、私の方からは以上です。ありがとうございます。

〔佐久間会長〕

はい。ありがとうございます。2ページの取り組みの柱について、多方面からご指摘いただきました。人材育成、経営的なものも含めたスポーツマネジメントセンターの発想とい

うのは、私個人の受けとめ方かもしれませんが、非常にユニークな発想だと思って聞かせていただきました。

では松永委員、よろしくお願いします。

〔松永委員〕

はい。松下委員のお話と分野的に重なるところがあります。まず資料4の2ページの三つの柱のところなのですが、基本的には奈良県さんが考える方向性ということなので、この三つをベースに考えたときに、まず1番上の健康増進のところ、具体的なターゲット層によって、課題も違ってくると思います。具体的には、幼児と子供というカテゴリーはあるのですが、それ以外のカテゴリーがないので、おそらくこのまま取り組んでいくと、かなり効果が薄くなってしまいう可能性があります。せっかく未就学児の話もこれまでさせていただいたので、幼児向けというカテゴリーは一つ賛成です。先ほど松下委員からもありましたが、やはり楽しさというのがスポーツの原点になっていますので、まず身体を動かすこと、スポーツは楽しいと感じてもらおうというところで、今までスポーツは小学生以上を対象にしてきたところがありますので、幼児向けというのは一つのカテゴリーでいいと思います。

あと子どもというのも、一つのカテゴリーでいいと思うのですが、子どもというカテゴリーには入ってこない、青少年というカテゴリーもあります。また成人の中でも、スポーツ庁で区切られている20代30代のスポーツ実施率が低いというのも全国的に分かっている話なので、働き盛りの世代、あるいは、子育て世代というカテゴリーも重要かと思えます。

まとめると、課題のところ、幼児、子供、青少年、20代30代のところは40代も含まれますけれども、具体的には働き盛りの世代ですとか、子育て世代ですとか、そういったところにも確認が必要です。またこのカテゴリーには中高年が全く入っていません。高齢者、特に地域間格差のところ、山間部を含めた過疎地域の高齢者というカテゴリーと、高齢者の中でも前期高齢者と後期高齢者とでもまた違ってきますし、もう少し課題のところを丁寧に、層で分けていくということが必要かなと思います。そうすると取り組み例のところもまた変わってくると思います。障害者のカテゴリーはそのまま設定していただければ良いのですが、実は障害者もひとくくりにされますが、子供、青少年の障害者の方と成人の障害者の方とでは、障害者スポーツの支援という視点でも随分違ってくると思います。さらに、障害の状況など層に分けていくということ、この段階でもう少ししてもいいのかなと感じております。

あと2番目のところで先ほど松下委員からもお話がありましたが、スポーツシーンを充実させる人材というところで、課題の2番目のスポーツをする人を支える人材と、スポーツボランティアの人材、育成というのが、わかりにくくなっているのではないかと思います。ですのでこのあたりをもう少しわかりやすい課題設定にした方が良いのではと思います。私たちは分かるのですが、スポーツの関係者ではない、一般の方々が見ていくことになると、ちょっとここの表現がわかりにくいかないかなと思いました。

それから私も松下委員と同じで、マネジメント人材、経営人材など、コーディネートする人材やしぐみについて、全く触れられていない点は気になります。そういう方々がないのでなかなか改善されていかないという課題がたくさんありますので、スポーツマネジメントセンターという案がございましたが、奈良県さんの特徴としては、この審議会にこれだけ民間の方が入っておられる、あるいは活躍されていた元日本代表の方がお二人もいらっしゃる審議会というのは、都道府県レベルでなかなかないんですね。こういったところが奈良県らしさだと私は思っていて、それをもう少し計画にもしかり反映をしていただけると良いと思います。あと前回は発言をさせていただきましたが、国体を機に、スポーツタレント発掘事業のような取り組みについての方向性についてお聞かせいただきたいと思います。恐らくこの機会を逃すと、なかなかきっかけはないのかなというふうに思っています。そのためには、話題にも出ていますが、指導者含め、様々な環境整備というところが必要となってくるのですけれども、別にトップアスリートを育てるということだけではなくて、やはりそういったスポーツタレント発掘事業をすることで、いろんな測定会に参加するとか、チャレンジするとか、そういった子供たちが発掘、あるいは育成の段階で、そういう機会に触れるという環境づくりを県が主導でやっていくのかどうかということです。すいません、私の発言資料を見ると、行っていくべきと書いてあるのですが、恐らく、行っていくべきとは発言していなくて、奈良県さんの現状について議論などをされてますか？確認をしたと思います。検討をしているのか、していないのか、検討した結果、やらないのだったらどういう理由でやらないのか、やるのだったらどういう方向でやるのかという県の意向は伺いたいなというところでした。

近隣では、京都府の取組のように、強化していきたい種目にターゲットを絞るというのも一つなのですが、強化するための環境が整いやすい種目を選ぶというのも一つだと思います。要は、今、強化が出来ているっていうところは、おそらく環境が整っているのだと思います。現実的には、タレント発掘事業を実施しても、結局、育成していなければ意味が半減してしまいます。奈良県の強み、強化をしていくべきスポーツの種目は何なのか？これは1番目の柱のところと、2番目の国体のところにもちょっと話が行ってしまっているのですが、そういったものの中で、今、実際に強い種目と、強化するための環境が整いやすい種目、あと協力体制が得られやすい種目などを絞り込んでいくことが、もし、実施されたとしたら重要なと思います。京都府の場合は、フェンシングとカヌーとバトミントンの3種目に絞り、競技団体と大学などが連携して進められていて、育成しやすい環境が整っている、つまり人材がいるという状況なのでですね。それを支えているのは、競技団体および立命館大学と同志社大学のスポーツ健康科学部から、人材を出してもらって、プログラムをサポートするという形をとられています。奈良県さんにおいても、国体に向けて、強化出来るスポーツ、または強化をしていきたいスポーツは何なのかという議論は是非していただきたいと思います。また、それをサポートしていただく大学についても、奈良女子大学さんなど、さまざまな大学などと連携していくというようなことも含めて、国体を機に、奈良県の子供

たちをどう育てていくのかというところについては、ご検討していただきたいなというところ。そのあたりが、1番目の振興ビジョンの柱にも関わってくるので、奈良県さんの現状を聞かせていただければありがたいなと思います。

長くなってすいません。以上です。

〔佐久間会長〕

はい。ありがとうございます。

最後の方に県に対して質問がございましたが、少しお待ち頂いて、まずは他の委員の方々から意見をお聞きしたいと思います。

ただいまの松永委員のお話の中では、取り組みの柱となっているところ、それぞれについて触れていただきましたが、最後の方で特に松下委員と共通するものとして、強化する種目を絞って、本県の持っている資源をもっと活用すべきだとか、現在持っているサポート資源をもっと有効に使うことが必要ではないか、ということも挙げていただいたと思います。

そのなかで特に、松永委員から対象者の年齢をもっと幅広くというご指摘もありましたので、指導者と、それから学童を対象に活動されている、福西委員にお願いしたいと思います。

〔福西委員〕

私は実際にスポーツを動かしている側の人間、現場に近い人間なんですが、やはり人材育成がすべてと思っております。これは選手というだけではなくて、マネジメントも含めて、いくら良い設備、いい施設があっても、やっぱりそこを動かす、スキームを作れるような人材がいないと、なかなか難しいなというふうに思っていますので、すべてにおいてはまず人材の育成かなと思っています。

また、今現在、奈良県でも総合型地域スポーツクラブが、非常に多くいろんな地域に出来てきていると思います。よく、山間部と都市部の差があると言われますが、奈良の場合は吉野スポーツクラブさんという、結構山手の方にあるスポーツクラブさんですが、実際はそこにある体育館の稼働率は非常に高く、よく頑張っておられます。当然自立されてやっておられます。私どものクラブはサッカーが中心になるんですけども、競技性という意味では、小学生レベルでも、非常に、今までとは違って頑張っています。だからそういう田舎の方、山間部の方でも、そういう総合型スポーツクラブがあるだけで、幅広くやっておられます。

総合型地域スポーツクラブは先ほどの幅という意味でいくと、アスリートとして楽しむという幅もありますし、年齢層の幅もあるし、いろんな幅を網羅していくのは基本的に総合型地域スポーツクラブでやっておられるところが多いです。しかも自立していかないとやっていけないというので、運営をしながら、小さな組織ではありますけども、マネジメントも含めていろいろ多分勉強されてると思います。だから私は総合型地域スポーツクラブをどれだけうまく育てて、それを利用しながら奈良県全体でやるということになれば、非常に

活用できるのかなと、まず思っております。その中でまたスポーツマネジメントというようなものが出てくるのかなということで、総合型スポーツクラブの育成をもう一度考え直して、今現状ある総合型地域スポーツクラブはどのレベルで上がっていくかというのが一つと思います。それは特に健康増進のスポーツということで、一番最初の取り組みの柱というところと、2番目の柱のところに入ってくるかと思っております。

あと、今私は奈良県の橿原市というところに居るんですけども、そこには大きなスポーツ公園が二つあり、非常にいい公園なんですけど、実際どれだけ人が居るかという、なかなかいいです。競技の大会だとかそういうのはあるんですけど、ただ走るであったり、散歩するであったり、そういうところでいくと、両方とも非常に暗い、足元が悪い。すごい施設ができるというのは非常に大事だと思うんですけど、現在あるスポーツ施設の安心安全を高めていくだけでも、そこに集まってくる人たちが増えてくる。そこに総合型地域スポーツクラブがいろんなイベントなんかをやれば、普段からやれるようなことは非常に増えてくるのかなと思いますので、施設の充実というの、もう少し安心安全を考えてまず整備をするというのは、非常に大事なことかなと思います。

あともう一つ人材の方、例えば国民スポーツ大会、どちらかというところとちょっとアスリートに近いところなんですけど、市町村の方々のアンケートのところにも載っていたんですけど、大人になってからやる場所がないからアスリートが外に出ていく、というふうなコメントが中にもあったんですけども、実際我々がスポーツをしている中では、ほぼ高校年代で、県外へ流出しているのが現状です。それを止めるという、単純に強豪校がないからというふうなことは、現実的に中学から高校に上がる時には、あると思います。その辺は、現場からすれば、私立ですごくそこを強化されている学校というのは、例えば学校が決めることなんですけど、実際奈良県の中にも体育科と呼ばれるような高校が存在していると思います。そこでもう少し充実した体育科ということで、昔は陸上なんかで結構、活躍されてる高校もありましたけれども、やはりそういう、高校の体育科のある学校を充実させて、県外の流出を下げる種目を作っていくと。すべての種目は難しいと思うんですけども、そういうふうなことをやっぱりやっていくということですね。

最後にスポーツの環境と整備と地域の活性化ということで書いています。施設がいいものができれば非常にいいんですけども、やっぱり最終的には、松下委員なんか言われましたeスポーツという、私らとはまた違う角度で見られたというのがあるんですけど、実際に体を動かすスポーツということでいけば、確かにハードがあれば、皆さんはそこで活躍されると思うんですけども、そこにどんなソフトがあるかだと思うんですね。いろんな大会が開催される、それも地域の人たちが自分たちで運営をしてやられる大会での、地域の、例えば総合型でもそうですし、クラブでもそうですし、そういう方々が自分たちでやれるような仕組みは、どんどんこれからやっていかないといけないなと思いますし、そういうふうな人たちが成長する場所ですね。例えば総合型地域スポーツクラブが結構いろんな運営をされているということで、施設の運営をするようなところに地元のスポーツクラブなん

かが入ると、やはり地元がいい方向に向いてやっていけると思いますし、レベルを上げていくというためにも、民間と、総合型地域スポーツクラブなんかの力が必要なのかなと。そういうことでスポーツと、例えば観光であったりとか、市町村なんかとも共同で何かをやるというようなことも、やはり地元が育たないと、外からどれほど大きな力が入ってきたとしても、世界陸上が来たところで多分一回で終わると思うので、やはりそれが継続的にやり続けていけるような仕組みが要るのかなというふうに思っています。

国体、国民スポーツ大会ですけれどもね。強化について、先ほど選択という話もあったんですけど、私はここは競技毎だと思います。その競技はどれだけ業界で頑張れるかというのは大きいと思うんです。ただその中で人材の育成、指導の方とマネジメントと両方あると思うんですけども、やはりそこをしっかりと、県なのか地域なのかはわかりませんが、そこがバックアップすることで、各種目に、一人でもそういうことを考える人材が増えてくれば、各競技の頑張る方向性も変わってくるのかなと。私のところにも相談がたまにあるんですけど、トライアスロンどこでするんですかとか、ヨット部どこでやるんですかとか。ただそれはOBの方々が頑張っておられるだけなので、そういうところにも、そういう勉強ができるような機会を作るというのは大事なかなと思っています。

私は現場に近い者なので、あまり上手くしゃべれないところもあるんですけども、以上です。

〔佐久間会長〕

はい。ありがとうございました。

総合型地域スポーツクラブに実際携わっておられる方からの、非常に重要な意見だったと思います。特に学校教育後、大人になってからの受け皿がないですとか、そのために県から人材が流出するというような問題もありましたが、運営組織といったものの検討ということも、これまた福西さんがおっしゃる通りだと思います。

それでは次に、中西委員お願いいたします。

〔中西委員〕

ポーネルドの中西と申します。

皆さんのお話は大変最もなお話だと拝聴いたしましたけれども、国民スポーツ大会については、令和13年、10年後を目指してお話をされていると思うんですが、10年後の目指す姿というのはどういうものなのか。例えば、幼児、3歳の子供ももうその時にはすでに13歳になっているわけですよ。その時に、どういうふうに考えられるかというようなことも、考えておかなくてはいけないんじゃないかと思っています。

それから私は幼児の仕事を主にしておりますが、奈良県のスポーツ振興ビジョンの柱の中に、幼児というのは取り組み例としては入っているんですけども、本当は、10年後ということであればその幼児は、すでに真ん中（柱の二つ目）に来るような状態にあるのでは

ないかと思っております、理念がそちらに来る必要があるなということを感じています。そのようなことを少し考えましたので、皆さんの意見を聞かせていただきたいなと思っております。

それから、私事で大変恐縮なんですけれども、先週日本ハムファイターズさんと、遊びとスポーツということで協定を結ばせていただいて、2023年にスタートするのですが、野球場は野球場ですが、その近くに幼児の遊びをどう作るか、例えば、野球場で試合が開催されている期間というのはたった何十日間かしかない。そこを空けた後は、ではそこを何に使うのかということで、子供たちにどういう遊びをそちらで展開できるのか、一緒にやろうというような話が実は今出ておまして、発表させていただいたんです。スポーツの土台に遊びがあるんじゃないか、というふうに私たちは考えていますので、その辺もちょっとご意見を伺いたいなと思っております。

それと、これは本当に個人的な意見で大変恐縮なのですが、今パラリンピックが開催しておまして、開会式も大変素晴らしく、私は楽しみに見ているんですけど、残念ながら、NHKしか放送していないということで、日本は一体どうなっているのかなというふうに思いましたので、その意見も少し聞きたいなと思っております。

以上です。

〔佐久間会長〕

はい。ありがとうございます。

ただいま中西委員からのご質問がございましたが、このことに関しましてどなたか私はこう考えると、何かご意見をおっしゃっていただけたらと思いたいますがいかがでしょうか。

はい。朝原委員どうぞ。

〔朝原委員〕

はい。先ほどの中西委員からのご意見についてですが。私も、競技スポーツとスポーツ環境の整備という、そういうところを分けないといけないかなと考えております。もちろん競技とか、スポーツクラブを運営するとか、そういうことにはやっぱりマネジメントが必要ですし、指導者についても、資料にありますように医療等との連携というのにも必要になってくるんですが、それ以外の、子供の時からの遊びですね。自分たちでいろいろ体を動かすためのいろんな工夫を生み出したり、そこで友達と遊びながらコミュニケーション能力をつけていくといったような、指導とかそういうところではない、小さい社会性を子どもの頃から目につけるといっても、スポーツの領域に入ってくるんじゃないかなというふうに思っています。

今回の東京オリンピックで、これ新しいなあと思ったのは、スケートボードとクライミングの競技でした。これまで僕が競技スポーツの中で生きてきて、ライバルを讃えるというのはもちろんあったんですが、競技中にあんなふうに讃えたりするということはなかったで

すし、クライミングで登るルートをみんなで相談して決めるのというのは、ちょっと有り得なかったんですけど、そういう新しいスポーツの看板という中で、スケートボードなどでも、みんな誰かに教えてもらうというよりは、自分の技を磨くために、誰に言われることもなく、一日中滑って遊ぶというところから、ああいった技とかが生まれているということがあります。僕も小さい頃は誰に言われることもなく勝手に遊んでいたんですが、そんなふうにして体力をつけてきたので、施設をきっちり整えて指導者をつけるというところと、子供達が自由に遊べたり、部活動でがつつり指導を受けなくてもみんなで集まりあって、バスケのスリーポイントシュートをするとか、そういうちょっとゆるい感じの、みんなが集えるような場所というのも必要なんじゃないかなと思います。それがずっと続いていくと、大人になってもスポーツや、体を動かす楽しみというのが続いていくのではないかなと思います。

以上です。

〔佐久間会長〕

はい。ありがとうございました。

まさに朝原委員もおっしゃったように、クライミングやスケートボードでの選手の活躍のように非常に新しい形ですね。特に指導者のいない、あるいは自分たちでいろいろ調べながら経験しながら、世界のトップレベルまで行くという、こういったスポーツの、遊びから派生して、経験、将来に向かってトップレベルにまで繋がっていくということも示されました。必ずしも十分な施設、十分な指導者ということだけにこだわる問題ではないかなと思うんですけども。

この辺のところについて、まだどなたかご意見等ございませんでしょうか。中西委員お願いいたします。

〔中西委員〕

私は、ここには個人で参加しているので、あまり会社の話はしてはいけないかもしれませんが、遊びのプレイリーダーという考え方そのものも、大変重要であるというふうに思っております。親子、それこそ幼児から、10歳～12歳の子供たちの間にプレイリーダーが入って、親子で楽しんでいただく施設を私たちはやってきております。その間というのは、子供が一人で何かやるとかいう問題ではなくて、親もスマホを一生懸命見ながら、施設と一緒に来ているということだけではなく、施設の中で、親子がどれだけ楽しく過ごして、そして大人になったら、自分の子供にもそういう体験をさせてあげたいという思いができるような世の中になればいいなという思いをいつも持っておまして、プレイリーダーも育ててきています。そういう考え方で、こういう大きな大会に、プレイリーダーが配置されるようなことはできないものかなというようなことも、一つは考えております。

〔佐久間委員〕

はい、ありがとうございました。

今までいろいろご意見を頂戴致しましたが、朝原委員からのご発言の繋がりからいっても、ここでは千葉委員の方から、この取り組みの柱、それから具体例等も含めご意見頂ければと思います。よろしくお願いします。

〔千葉委員〕

はい、よろしくお願いします。

結構聞かれているんですけど、あんまりその知恵が無いので、アイデアが無いので、新しいアイデアはあんまり出てこないんですけど。だけど、これだけ毎回意見がすごく出てきて、これだけこうまとめているのに、じゃあ奈良県としてはどうやっていくのかっていうのを、まとめて行動に移して、具体的にやっていかないことには時間だけが経っていくって、すごくそこ疑問に思っている。いろんな意見はあるんですけど、いろんなアイデアも出てくるんだけど、10年って言うてもぼうっとしてたらあつという間ですし、県民がスポーツに親しむと言って考えているだけでは、時間が365日あつという間に過ぎて、今コロナなので、もうあつという間に1年が過ぎる。アイデアをいっぱい出してもらうってことはすごく大切なんですけど、いい加減なにか、このままこのアイデアに沿ってなのか、自分たちの意見なのか、いい加減決めて、絞って、あれもこれもってわけじゃなく、じゃあこういう感じでやっぴいこうみたいな行動に移さない限り、何かもう悪口になるんですけど、今の日本みたいにぐだぐだで、何考えているか分からない。県民と差が出てくる。やっぱり考えることも大事ですし話し合うのも大事だけど、具体的にじゃあこれで行こうみたいな感じで絞ってやっぴいこうということも、そこがちょっとなんかあんまり、どうなのかがこっちの方にはわからないので意見は言えるんですけど、そこはどうなのかなと思う部分。あと、スポーツにも県民の人たちが、プロだけじゃなくて県民の一般の人たちが親しむってということでは、コロナになっているので、結構屋内とかには人数制限とかも出てきますし、これからもっともっと多分厳しくなると思うんですね。となると、雨とかの関係で屋内屋根付きだった方が良いんですけど、結局外の方だと、感染がどうか科学的な根拠は分からないけど、結局外の方が人数の制限も、ちょっと距離を置いたらまだましかなくて思う部分なのに、さっき福西委員も言ったように公園に行ったとしてもボール禁止、スケボー禁止って、全部禁止なんですね。綺麗な花とかは植えてあるんですけど。じゃあどこで身体を動かすんだってなったときに、やっぱり外では場所が全然無くなって。でも海外だったら、奈良には海が無いんですけど、ビーチバレーコートが無償でいっぱいあって、誰でも自由に使えるとか、あとバスケットの本場コートが何十本も置いてあって、誰でも、子供から社会人の人が会社終わってからとあって、もうとにかく、さあ行こう、やろうっていう環境が結構いっぱいあるんですね。大金を使って屋根付きの屋内施設を作らなかつたとしても。例えば、奈良県でしたらダムがあってカヌーとかあるのに、興味を持って情報があんまり一般の人に無くて、今だったらコロナですごくキャンプが流行っているのに、せっかくだったらその流れでカヌー

とかも、みんなしたことないけどちょっと経験でやってみてメジャーになって、その中で、カヌー競技を目指そうかなあみたいなの、そんなちょっとしたことからやっぱり結びつくと思うんですね。だから流行っているものだけにワーッとかかる習性が日本ってあるので、そこだけに集中するんじゃないかって、今回のスケートボードの女の子も、松原市長さんが作ったもので、オリンピック選手を育てるなんていうのではなく、スケートボード場が無いからって作ったら、そこにみんな練習しに行くと、オリンピックで金メダルを取るみたいな。最初から凄いアスリートを作らせようとかいうことじゃなく、みんなが親しめる場所を、そんな大それたものじゃなく、作ってもらって、あそこにあるしすぐ行こうかみたいなの、気兼ねもなく、予約いっぱい取れないみたいなのではなくて、あっちこっちにぼつぼつ、バスケコートであったり、カヌーにふらっと週末みんなで行けたり、家族で楽しめたりっていうので良いんじゃないかなと。何も難しくないんじゃないかなと思う。

あと国体はですね、選手側とか運営側とかよりも、やっぱりすごく大事なものは、私も経験して分かるんですけど、国体の良さって地元の人たちと一緒にって言いますか、行った会場の、その県の有名な食べ物を知ることとか、選手側としたら、私が行った時は香川県なんですけど、讃岐うどんが有名で、地元のおばちゃんたちが一生懸命うどんを振る舞ってくれて、あっ香川県はうどんなんやとか、その人のことを知ることになるんですね。なので、国体の良さとしたら、スポーツ選手のことでもすごく大事ですし、成功させることも大事なんですけど、競技のことは競技の専門の人に任せて、すごく大事な、みんなが来た後に残ることってというのは、オリンピックじゃないですけどやっぱり地元の人と交流できて、全くスポーツをしてなかった人も携わることによってスポーツを知るとか親しむとか。選手側も、全くスポーツと関係ない地元の人と関わるとか、そういう気持ちの残ることの方が結構多いのが国体の良さでもあるんですね。なので、やっぱり少なくとも奈良県の、普段全然興味のない、お年寄りから、小さな子供から、自分の年代のママさん世代の人も、国体があるからちょっと参加してみよう、手伝ってみようっていう、そういうふう呼びかけるように、やっぱりお互い来る方と迎える側が、良かったわ楽しかったわみたいな、奈良県のこと知れたわっていうものにした方が私はいいと思います。

以上です。

〔佐久間委員〕

はい、ありがとうございました。

大変意義深いと私は感じておりましたが、確かに委員の方々始め、多方面からいろんなアイデアをいただいておりますが、何をもちいてそれを実行していくのか、要するに的を絞って具現化していく方策というのを、もっともっと検討すべきじゃないかということだったと思うのですが、この点につきましても、現段階におきましてはまず、いろんなご意見を頂戴したいと思っております。

その一方で、もう時間的にも余り余裕がないので、もう的を絞って、どれを本県の特徴と

していくのか。何に重点を置くのかということについて決めていきたいと思っております。

〔松永委員〕

すいません 2 回目で申し訳ないですけど、同じ話の繰り返しというのは千葉委員もおっしゃったように、こちらの意見を言ったことに対して県がどうするのかというのが返ってこないというところについては、特に国体がもう本当に待たなしたので、その辺りは私も気になるところであります。

あとは千葉委員が今おっしゃっていただいた「おもてなし」ですよね。そこは本当におっしゃる通りで、とても重要なところなので県として、やはり柱にしていけないといけないなと、今お伺いしてあらためて思いました。福井県ではおもてなし国体と言って、それが前面に出ていた大会だったので、そういったところの奈良県の軸ってというのは、今お話を伺っていてとても重要だなと思いました。

その上で、やっぱり県民が他の都道府県の方が来られて活躍する場面でおもてなしするのももちろん大事なんですけど、奈良県出身の人が活躍しているのを応援するというのはやっぱりまた格別なので、その辺りも含めて、県民が活躍するのをみんなで応援するという、見るという文化を醸成するところも合わせて取り組んでいただきたいということを併せて、補足させていただきます。

以上です。

〔佐久間委員〕

はい、ありがとうございます。

選手は選手、観戦者は観戦者ではなくて、もっと一体感のある盛り上がりですね。国体をいかに盛り上げていくか。これは確かに重要なことと思っております。

それでは続きまして、特に障害者スポーツにつきましても非常に重要があると思いますが、この方面の重要な先駆者でもいらっしゃいます、川手委員お願いいたします。

〔川手委員〕

はい。川手でございます、初めまして。

非常に、実際のアスリートの方の、忌憚ないご意見につきまして、確かにそうだなと、みなさんおっしゃることは非常に良く分かりました。

私自身スポーツということでは、障害者支援センターの所長もしております、今後、やっぱりここに書いています、健康、さっきの若年者のスポーツとは外れますけれど、健康寿命をどうするかというところが、私の観点から見ると、先ほどの、国体で盛り上げるということ。それから引きこもり、県民の中でも引きこもり、普通は地域としては民生委員という方がボランティアで活躍していただいているんですけども、今どうもコミュニティーケースワーカーが育成されていて、なかなか育成はしてるけども活用されていないという話もあり

ました。それを掘り起こして、先ほどの屋外でのスポーツ、私どもの理学療法士、それから作業療法士と、いろいろ今良くする会というのを作り上げて、どうということが一番、健康寿命を、長生きすることができるかって。今、高齢の方でスポーツといいますと、グランドゴルフが非常に人気ありまして、何も言わなくてもこれひょっとしたら国体に入れるんじゃないかなと。それから福祉としては、ボッチャという、競技特性からして簡単に参加できるという競技とかありますので、その辺は、一番最初に話がありましたように、スポーツマネジメントセンターでスポーツマネジメントを。少年・成人・高齢者、それからメタボで、糖尿病が流行っているというか、糖尿病がすごく多いんです。その糖尿病対策としては、スポーツが一番の治療となりますので、そういうのを含めて、開催されたいかがかなと思います。

そして国体なんですけれども、令和13年度ということですが、残念ながら三重大会が今年無くなったということは、ひょっとしたら令和14年で、オリンピックにぶつかる年じゃないかなと推測しております。ということは次の国体では、先ほどからあるようにいろいろ催される競技を迎える、そういう村づくり、まちづくりで、いろんな練習場を提供してなど、盛り上げて、その年を迎えられたらいいかなと思うんですけど。

またよろしくをお願いします。

〔佐久間委員〕

はい、ありがとうございました。

ただ今、川手委員の方からのお話の中でもありました、健康寿命をどうするか。そのなかからいろんな対策というのを考えるべきものということだったと思います。

前回、QOLを高めるための生涯スポーツの推進ということで、いろいろご発言いただいた、星野委員お願いいたします。

〔星野委員〕

はい、星野です。よろしくをお願いします。

川手先生のおっしゃったことを引き継ぐ形ですけれども、同じようなことを私も考えておりました。要は健康寿命、元気に長生きしていただくために、一般の方、特に高齢者、あるいは壮年期、働き盛りから、もう準備をしておいていただかないといけないですけども、そういう人たちに、どうやって運動をしてもらうかや、どれだけ切実に運動を思ってもらえるか、自分の身体に意識を持っていってもらえるかが大切になります。このためには、やはり地域の「仕掛け人」が必要です。いろんな言葉で、リーダーとか、スキームづくりをしましょうとか、委員の皆様からもお話がありましたけれども、あえて「仕掛け人」と言わせていただきたいです。今、私も地域にいろいろ調査に出ておりますが、自治会長さん、民生委員さん、もう少し大きな単位で、地域の社会福祉協議会の方々、あるいは地域包括センターの方々、いろいろ、お役所とは独立した形で地域に懸命に働きかけてくださっていて、そ

して市や県と連携をして見守っておられます。それを上手くやれている所とやれていない所が、調査に出ただけでも分かりました。要は「人」なんですね。その人達が関わって、地域の理解が得られて、運動習慣を定期的に取り入れられている地域とそうでない地域で、コロナフレイルとか最近言われていますけれども、そういうような状態に、大きく差が出てきているように思います。まだ結果まで導き出せてはいないですけども、地域に働きかけをする人が大事だと思います。そして、その枠組みを作るのも大事だと思います。いくら働きかけても、声をかけても来てくれてくれない引きこもりの方をどうやって出すかを解決するために、まずは、みんな一人一人、自分が生きていくということが大事ですので、マズローの欲求段階説なんかで思い浮かべていただければいいかと思いますが、生理的欲求、そして安全欲求が満たせるように、社会で安全に暮らせるように、ソーシャルキャピタルですね、そういう繋がりを深める場づくりをしていただきたいと思います。そして、社会的にそこで役割が得られて、認められるという欲求が満たされていけば、それぞれがQOLの向上、生きがいづくりに繋がっていきます。

地域の方と直接お話すると、リタイアした後は縦の繋がりによりやっぱり横の繋がりが大事だということをひしひしと感じるとおっしゃいます。リタイア後の人生のこれからの20年30年、人生の多くを占める時間をどう地域で安全に、相互扶助の関係で暮らしていけるかということに目を向けたときに、スポーツ、運動というものが、非常に有効なツールの一つになります。そして、そこに働きかけてくれる人づくり、仕掛けづくりを、やはり行政から働きかけて、上手く回るように。それこそ、もたもたしてはいられないので、国体を目標に、元気な人たちがすごく多いよってという奈良県を謳えるように頑張ってください。

そしてもう一つですね、3番目について、奈良県の地域活性化というと、南部の方に目を向けがちですけども、南部に限らず、県全体の地域活性化するとよいですね。私は個人的に地域活性化に何か有効な働きかけができないだろうかと学生と取り組んだものに、スポーツツーリズムを若い人目線で企画しました。子供たちに奈良県を愛しながら、奈良県の中で感動を味わってもらい、感動を与えるのです。子供の頃の感動は人生を支える何かに繋がります。もう一つ、恐怖体験ですね。恐怖、危ないぞってというようなことも、体を動かすことを通して味わってほしいのですが、そういう体験ができる身近な自然と、ちょっと手を加えたものが融合した場所があって、週末などに、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんがさっと連れていけると良いなと思っています。そういう場づくりによって、地域が活性化する。またその地域に暮らす人たちや、移住者、観光業の方と合体して、盛り上げていければ、旅行者へのおもてなしにも繋がっていくのではないかと思います。

以上です。

〔佐久間委員〕

はい、ありがとうございました。

多くの委員の方々から、様々なご発言をいただきましたけれども、これらを踏まえまして、

今回から本審議会に参加いただいている、県議会文教くらし委員の森山委員にご発言を御願いたいと思います。森山委員はご自身も野球を続けておられた方ですけれども、そういった指導経験も含めて、県の行政の立場から、ご発言いただきたいと思います。

〔森山委員〕

森山でございます、よろしくお願ひいたします。

私からは、この取り組みの柱の三本柱の中の、健康増進のためのスポーツの推進に関係するところを述べさせていただきますと思います。

先ほど佐久間会長におっしゃっていただいたように、私は野球の経験がありますが、スポーツを始めるきっかけ、あるいは動機というのはどこで得ることが多いのかということ、その大きな一つというのは、同世代同年代の人たちが取り組んでいるパフォーマンスを見たり触れたりすることによるものが、結構大きいなということを感じます。私に関わっている選歴野球という60歳以上で作っているチーム、団体が奈良県にもありまして、その存在を知った人で、若い頃に自分も草野球をやっていたという方や、同じ世代だから仲間づくりとして参加してみたいというような方から、どこへ連絡をしたらいいのか分からないという問い合わせが結構あったんです。

今回のオリンピックでも、13歳の女の子がスケボーで活躍したり、40歳前後のスポーツクライミング選手の活躍等々を見て、同世代で自分を重ね合わせやすいことから、関心を持つ方が多くなるように感じます。そういう関心を持った方が、次にそのスポーツを始めるきっかけとして、どこに行けばその競技が見られるのか、そのことをどこに問い合わせたらいいかということ、敷居が低く気軽に確認できるという、そういうソフト面の方の充実というの、生涯スポーツを始めるきっかけの一つになると考えております。

それともう一つ、国体関係、国民スポーツ大会関係の話ですが、これはぜひとも、資料4の3枚目にあります大会の姿や目標ということには賛同しております。特にこの目標の④に、アスリートが活躍できる環境が整うことと、この下から2番目のところにありますが、さらにその次のページに、県の現状についてのヒアリング結果がまとめられていますが、まとめられた中の多くが、現状についての課題であります。施設の老朽化、また施設数の少なさについてのハード面の課題というのが結構挙がっております。

今、オリンピック、パラリンピックで盛り上がっている中で、高校野球も盛り上がっております。今週は奈良県でも、インカレの大学生の軟式野球全国大会というのが開催されています。昨日決勝戦がありまして、優勝校が決まったことは、今日の一部のニュース、新聞でも取り上げられています。その辺りは中央大学とか慶應義塾大学とか、そういうよく聞く大学も全国大会の中に入っております。そういう大会を全国で47都道府県の中で、ここ数年奈良県で何とか開催していますけれども、出場するチームにとって、選手にとって、整備されたグラウンドで戦いたいというのが率直な思いだと思うんですね。今の奈良県下の野球場の現状では、プロ野球の1軍の試合も開催できないという状態です。そう考えると、野球場

と同じように老朽化していたり、規格が足りていないスポーツ施設であると、アスリートの活躍の舞台が県内から離れてしまって、一軍のスポーツ選手に身近に触れる機会も遠のくということにも繋がってくると思います。そのハード面の整備については、10年後のスポーツ大会までに、どのスポーツ施設をどのように整備をしていくのかという、具体的な目標が必須だと思います。グラウンド整備をどういうふうにするかということが決まれば、10年後の国民スポーツ大会に、開催県として、天皇杯や皇后杯の獲得を初めとして、優勝の種目数や入賞種目数も立てやすくなっていくのかなということも感じているところです。

以上です。

〔佐久間委員〕

はい、ありがとうございます。ご自身のご経験からも踏まえまして、行政的な立場からご発言いただきました。

もう既にちょっと予定した時間を過ぎておりますが、特にこの一点だけは言っておきたい点がございましたら、手短にお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

〔福西委員〕

皆さんにちょっとお聞きしたいんですが、先ほど幼児のスポーツのことで、幼児の身体の動かし方、運動についての話があったと思います。私も自分たちのクラブの中で、幼稚園の指導じゃないですけど、遊びを含めてよくやるんですけども、ハード面とかそういうふうなことではなく、例えば子育て世代の人たち、男性でも女性でも、その子育て世代の人たちが、今みたいなこの暑い時期に、どうやったらちょっと遊びに行こうとか、寒い時期に、どうやったらスッと普通に外に出かけて子供たちと一緒に遊ぼうかと思わせるには、どんな仕掛けがあるのでしょうか。たくさん人がいらっしやいますので、何ができればいいのか、もし何かアイディア等あれば。施設のことでも結構です。以上です。

〔佐久間委員〕

はい。それではただいまの福西委員からのご質問ですけれども、中西委員いかがでしょうか。

〔中西委員〕

当社は施設を持っておりますので、全天候型の遊び場は作っておりますけれども、個人的に私が感じておりますのは、暑い時期や寒い時期に、どうしても外に出かけていかななくてはいけないということはないと思うんですね。お家の中でもやれることっていっぱいあると思うんです。それこそ、お風呂場でプールのようなご遊びをしてみたり、お家の中でちょっとしたボール遊びをしてみたり。いろいろなことを、今回、コロナでみなさん、大変研究をされているように思いますけれども。親子で楽しむというのは難しいことではないなというふ

うに思っております。もちろん室内で遊ぶ、いろいろな遊び場を作っておりますので、そちらに来ていただくと、本当に広々と楽しい遊びが体験できるというのはありますが、もちろんお金もかかりますし、時間もかかりますから、ぜひご家庭でできる遊びというのを、もっと親子で考えていただく機会を持つ必要があるなというふうに思っております。

以上です。

〔佐久間委員〕

はい。ありがとうございます。

それでは時間が参りましたので、最後に私の方から少し申し上げたいことがございます。私が考えておりましたことは他の委員の方々がおっしゃっていたことと一致するのですが、一つ、この国体を踏まえて、今回、東京オリンピックもありましたので、県の特徴を示す上でも、レガシー教育というものをもう少し、教育機関の中で普及させることができたらと思っております。スポーツの持つ意義も含め、本県の活躍する選手、私は個人的には県のスポーツ博物館みたいなものがあるのもいいのではないかと考えています。そこで、まず最初に、教育との連携、教育機関の連携、特に中高、それから高大の連携というものをもう少ししっかりと考えて、選手育成などをやるべきではないかなと考えています。

そこで、これは少し県の方々には申し訳ないんですけども、県立大学とは何のためにあるんだろうと、私は個人的には非常に思っています。もし可能ならば県立大学に、スポーツのレガシーや選手の養成、人材の育成等といったことを要請できないかなと考えています。時々、県立大学のホームページを見ては、地域創造学部の中にまさに地域振興があるので、国体や国民スポーツ大会もある意味ではここにかかると思っていますので、やっぱり県立大学が担う責任があるのではないかなと思ったりしています。ですので、あえて苦言を含めて申し上げます。

それでは本当に限られた時間ですが、皆さん思いの丈の数分の一しかおっしゃる事ができなかったかと思いますが、本日の審議会はこれで終わりたいと思います。本当にご多忙の中、貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございます。それではここで事務局の方にマイクをお返したいと思います。

〔吉田部長〕

委員の皆様、長らくご議論いただきましてありがとうございます。大変貴重なご意見を賜ることができました。

私はこのスポーツ行政に、おそらく事務局の中では一番長く携わっているのではないかと考えておりますが、反省も含めまして申し上げますと、なかなかまだまだ目についてないところ、気づいていないところもたくさんあります。今日の皆さんのご意見をお聞きして改めて認識したところもございます。それから、課題として挙げているものの、取り組めていないところもあるのも事実でございます。

とは言いながらも、10年後になるのか11年後になるのかわかりませんが、国体が回ってくることをきっかけとして、県のスポーツ振興をもう一度しっかりと建て直そうということで、計画はございますけれども、もう少し大きな意味で、ビジョンを先に提示したらどうか、あるいはそれをしっかりと条例にしてはどうかというようなところを検討しようということで、昨年度から、この審議会を開いて、そういった議論をしていただいているところでございます。

まず松永委員からご質問ございました、タレント発掘等々のことでございます。実はなかなかできていなかったというのが事実でございますけれども、これをこのままの状態にしておくのかというとそうではなくて、やっぱり取り組む必要があるかなというふうに思っております。反省も踏まえて言いますと、なかなかそのやり方がわからなかったというのも事実ですし、わからなかったからなかなか取り組んでいないというのも事実でございます。過去、単発的に、例えば、障害者のタレント発掘事業として取り組んだことも実はございまして、その際に、うまく取り組めた例もございまして、今現在もしっかりと活躍してくれている選手もいらっしゃいますので、このところは、ご指摘を踏まえまして、取り組んでいく必要があるかなというふうに考えております。

それから、施設の関係も実は非常に今悩んでいるところでございまして、これまでもいろいろご指摘いただいておりますが、大変老朽化しているというところと、それから今の競技開催基準に合っていない、あるいは大きな大会ができない、プロ仕様にもなっていない、そういう悪いところが全部該当しているわけでございますが、それではすべて新調できるかという、また財政的な問題もございまして、なかなかうまくできないんですけれども、そこを計画的にしっかりとやろうということで、具体的に取り組んでいきます。

その際に、大きな施設の並びの中で、子供の遊び場というフレーズも入れながら少し検討しております。今日ご意見も賜りまして、そういうしっかりとした競技施設と、それから身近な場所で手軽にスポーツが取り組める場所という空間と、それから子供たちがお父さんお母さん保護者の方々と一緒になって遊べるような場という、大きく三つのカテゴリーといたしまししょうか、そういった形で整理していく必要もあろうかなと、そんなことも思っております。

それから、スポーツマネジメントセンターというようなもの。人材、個人、チーム、クラブをどのように育てていくかということを見ると、やはりそういう取り組みが非常に必要かなと思っております。少し研究もしていきたいなと思っております。

それから、今はまだまだこういう課題が、すべて我々の方で整理しきれないところもございまして。今日いただきましたご指摘も踏まえて、各世代をどのようにしていくかということももう少し整理が必要かなと思っておりますし、もういい加減にしっかりと行動しろというようなご意見もございまして、また次回皆さんにお集まりいただきご意見を頂戴するわけですが、その際には少し整理したものを提示する必要があると思っておりますので、また担当課と一緒にその辺を作り上げていきたいなと思っております。

それから、パラリンピックの取り上げ方については、中西委員もご意見ということでおっしゃいましたが、やはり私も同じことを思っております。過去のロンドン大会やリオ大会であつたり、日本という国で、オリンピック、パラリンピックと連続してテレビで見た時に、非常にやっぱり取り上げ方が違う。私自身も個人的にも東京パラリンピックを非常に期待しておりました。ですが、まだやはりこういう状況でございますので、我々の方としては、障害者スポーツ、障害者というひとくくりではなく、いろんな種別がございますので、県としてはそのところも丁寧に、正面からしっかりと取り組んでいく必要があるのかなと考えております。

貴重なご意見、どうもありがとうございました。まだまだいろいろとお話をさせていただくこともあろうかと思いますが、次回までに、本日いただきましたご意見をしっかりと整理をして、次の計画、あるいはビジョン、条例とつなげるように、まとめ上げていきたいと思っております。引き続き県のスポーツ振興にお力添えを賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。佐久間会長、委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

〔棕本課長補佐〕

ありがとうございました。それではこれをもちまして、令和3年度、奈良県スポーツ推進審議会第2回定例会を閉会させていただきます。長い時間ありがとうございました。

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

令和3年10月19日

議事録署名人

福西 達男 印

議事録署名人

星野 聡子 印

※署名・押印された原本は別途保管。